

青梅市文化財ニュース

第 1 0 1 号

平成 8 年 3 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

お経の話

お釈迦様が説かれたことを書いた書物のことを経典と言い、一般的には「お経」と呼び習わしているのはご存じの通りですが、この経という文字は糸で布を織るときの縦糸のことであり、横糸のことは緯といいます。世界地図では、北緯〇〇度とか西経〇〇度と記してその国や都市の位置を表します。この北緯の緯が横で西経の経が縦を表します。お経も縦糸で結ばれた書物のことで、その昔インドで貝多羅葉という木の葉に針（鉄筆）で経文を書き、糸でつなげて保存したということから縦糸と言う字の「経」を使って呼ばれたと言います。もっともお釈迦様が居られた頃や、亡くなられてしばらくの頃は、暗記によって伝承していたと言われているので、お釈迦様直接書かれたものは残っていません。よく三国伝来と言いますが、インドから中国そして、日本に至るまで梵語やサンスクリット語というインドの言葉を、中国の漢文に直しそれがまた、日本に伝えられて来るわけですが、その間の僧侶のご苦労並大抵のことではなかったと思います。西遊記に出てくる三蔵法師は、玄奘三蔵のことを言いますが、この中国からインド(天竺)までの道中も、今と違ってなかなか大変なものであったと思います。ところで、この三蔵とは「経」「律」「論」のことで、お経と戒律とその理論である論の、3つに精通した僧侶を呼んだ名称ですが、この玄奘三蔵さんがインドより持ち帰り、訳されたお経で有名な物が「大般若経」と「般若心経」です。特に大般若経は、600巻という長いお経で、そのエキスを集めたものが般若心経といわれています。また大般若経は祈祷をするときに読経することが多く、この読経は転読というやり方で、全体を通読する真読に対するものであり、経題や経の初・中・終の数行を略読し、後は左右、前後に数回パラパラと教本を操って読経に疑すもので、主に大般若会や正月三が日の修正会の時に行われます。さて、この大般若経ですが、青梅市の文化財に指定されているものが4つあります。青梅で一番古いのは、長淵の臨済宗建長寺派の玉泉寺にあり、これは写本で「皇国地誌」によると、第51巻のところに建暦2年(1212)筆師源也、願主藤原氏、正月30日より6月25日に涉りたり、と今から780年も前に書かれたことが判ります。また書写されたのは、その年から文明、応安、享保年間等に書かれ、書いた人も青梅滝ノ上の常保寺の僧侶を始めいろいろな人の手からなり、400巻が残されていました。昭和60年代に壇信徒や寺院等の手により200巻が書き写され、600巻全巻が揃

ったということです。この他に、塩船観音寺と成木の安楽寺、御嶽神社のものが市の文化財に指定されています。他にも江戸時代初期に、黄檗宗の鉄眼和尚が宇治の万福寺で開板した木版刷りの大般若経が残されている寺院もあります。そこに書かれている供養主は、檀信徒である一般庶民から僧侶やその弟子など多数に上り、またその供養の願文も先祖供養から国家の安泰まで様々なものがあり、当時の様子が伺える貴重な資料となっています。

(文責 棚橋)

-
- ・新刊図書の案内 青梅市史史料集第45号 『調布村誌資料』 (1,200 円)
 青梅市郷土博物館、社会教育課にて販売しております